

5年「想像力のスイッチを入れよう」 リライトにこめた思い

しもむら けんいち
下村 健一

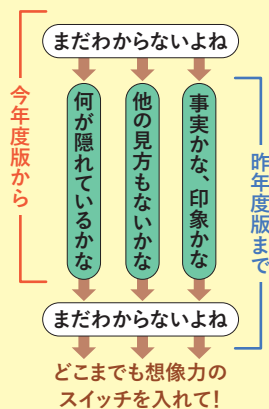
前ページの漫画でコッシーさんが言っている通り、「想像力のスイッチを入れよう」は、新年度から本文を少し改良しました。文中に『マークを付したキーワードが四つ登場しますが、そのうち最後（旧版・第十二段落）に配置していた『まだわからないよね』を、最初（新版・第八段落）に移設したのです。

これには、理由があります。私は多くの小学校へ出前授業に伺っています。そこで直接会う子ども達から、時々こんな質問を受けるのです。

「最後に『まだわからないよね』と言われると、なんだか突き放されて終わっちゃった感じがする。この後、どうすればいいの？」

——旧版では「いちばん大切なのは」、新版では「まず大切なのは」という前置きで強調しているとおり、実はこの『まだわからないよね』は、他の三つのキーワードとは別格の言葉です。他の三つが具体的なチェック作業を指示しているのに対し、これは各作

業の前提となる《保留》を指示しています。（左図参照）



「学校や家庭での会話」でも「メディアから発信される情報」でも、それを受け止める想像力の広がりには終わりはありません。私たちは、この世の中の事を全て知り尽くすことはできませんから。その時点その時点での判断はあっていいけれど、思い込みや決めつけの「小さい窓」から自由にいるために、『まだわからないよね』は常に抱き続けるべき、他の三つのキーワードの通奏低音なのです。

そんな常在する通奏低音に、どのタイミングで言及するか。最も素直なのは、一番目です。「保留して、チェックする」という順序ですから。しかし当初私は、これをあえて最後に配置しま

した。授業が済んだらオシマイではなく、ずっと『まだわからないよね』という意識を持ち続けてね！という思いです。しかしこの五年、冒頭にご紹介したような子ども達の肉声に教室で触れてきて、やはり自然な順序に戻そう、と今回の改訂で考え直したのです。いま出会ったその情報をすぐ信じるの、ちょっと待った！『まだわからないよね！……』という思いをこめて。

先生方には、ぜひ旧版の私の思いもお汲みいただき、この単元が終わった後も、朝や帰りの会で子ども達と世間の話題に触れる中で、「これって、まだわからないよね？」と、折々に各キーワードをつぶやいて下さい。実社会の不確かな情報（※例えば本稿執筆時点で言えば、新型コロナウイルスを巡るデマなど）に踊らされない、たくましい次世代を育てるために。



下村 健一

白鷗大学特任教授、令和メディア研究所主宰。元TBS報道アナウンサー。小学校「国語」5年「想像力のスイッチを入れよう」筆者。



※筆者ウェブサイト「シモムラスイッチ」

コラム「【急告】新型コロナのデマ・ウイルスには「ソ・ウ・カ・ナ」が効く!」もご覧ください。

<http://shimo-switch.com/hints/56868>